

紫雲山金戒光明寺黒谷は浄土鎮西四ヶの一本寺なり、元祖円光大師の旧蹟にして、叡山西塔の黒谷をうつして新黒谷と称す、本尊には元祖大師の像を安置す、脇壇の厨子には親鸞聖人の像あり、共に自作なり。阿弥陀堂の本尊は恵心の作なり。観音堂の本尊は行基の作にして、千手の像を安置す。〔洛陽観音巡りの其一なり〕勢至堂は法然上人の廟塔なり。〔則勢至菩薩の化現なるの謂なり、台座の下に五輪の石塔あり〕熊谷堂には蓮生法師自作の像、太夫敦盛の画像を安置す、三重塔の文珠菩薩は日本三文珠の其一なり。〔丹後切戸、和州安倍〕脇士は〔維摩居士、優波利尊者、優墳王、善財童子等の四像を安置す、これを世に天照春日八幡住吉の神像なりといふ大に非なり〕紫雲石は塔の北にあり、元祖大師一宗開発の時此石より紫雲たなびき異香薫じけるとなり。〔紫雲山の号は此謂によるなり〕鎧池、鎧掛松は、熊谷次郎直実上人の教に帰入し、着せし鎧を此池水にて洗ひ松に懸置しとなり。〔蓮生法師は承元二年九月十四日往生すべしと諸方へ自身触まはり給ひしかば、結縁の道俗馳集り庵を圍繞し共に高声に念仏となへ、袈裟衣たゞしくかけ西に向ひ其日の未刻にをはりをとげけるとなん〕元祖大師鴨太神宮の神勅によつて浄土安心の要文を書し給ふ、是を一枚起請といふ。〔当山第一の什宝なり、毎歳六月廿五日虫干の日に是を出して詣人に拜せしむ〕